

# つながる今津

高島市今津地域住民自治協議会だより

第5号

令和4年12月23日発行

## 地域住民自治協議会は…

区・自治会だけでなく、地域で活躍されているさまざまな団体がお互い連携しながら、今津地域を元気にし、活力あるまちづくりを行なうことを目的にしています。  
一人ひとりが主役の組織です。

発行 高島市今津地域住民自治協議会  
事務局 今津町中沼一丁目4番地1  
今津東コミュニティセンター  
(今津公民館)  
TEL 090-4927-3222  
メール info@imazu-jichikyo.org

## 今津地域まちづくり計画 2024-2028 策定とプロジェクト チームの発足を決定!!

11月26日に今津東コミュニティセンター(今津公民館)で、山口知之さんを議長に、臨時総会を開催しました。

議案は、今津地域まちづくり計画策定と、ともなうプロジェクトチームを発足することです。

今津地域のまちづくり計画は、当協議会準備会で協議・検討した内容に基づき、直近の課題を中心にまとめたもので、樹立した2021年から2023年度計画にそって現在、活動が進められています。

現計画に続く2024年から2028年度計画を来年度末までに策定するというものです。策定にあたっては、新たに地域や年代別など、各層からの委員による意見や住民の皆さん、現自治協の委員など、多くのご意見をお聞きしながら、足もとの地域課題や資源を生かした計画を立てるため、自治協内にプロジェクトチームを編成するものです。

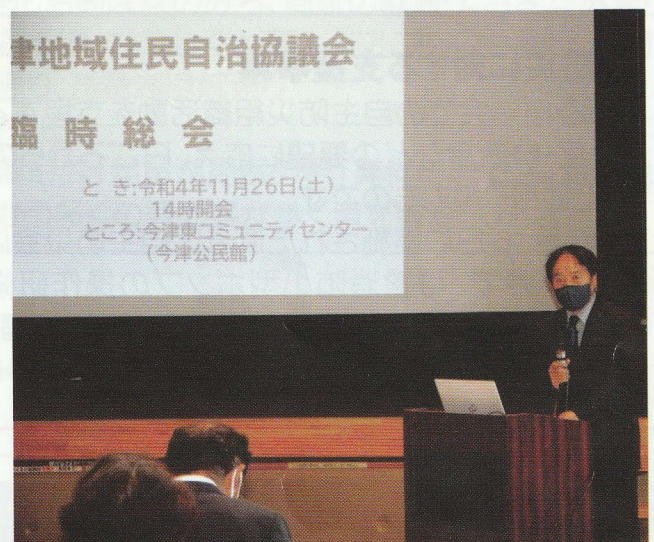
議案審議では、活発な意見がだされ、さまざまなまちづくり計画に対する想いが伝わった審議となりました。議案は全員挙手で可決いたしました。

### 【プロジェクトチーム】

今津地域の具体的な将来ビジョンを検討し、自治協の主体的な活動とあわせ策定提案をすることを目的にしています。委員は約20人。2024年3月31日までの期間で議論を進めます。



活発な意見が出されました。



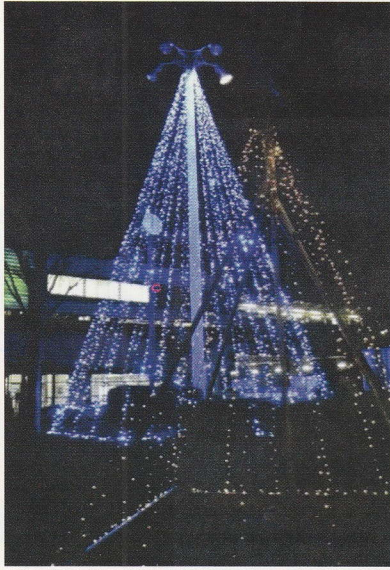
開会あいさつをする澤田会長

澤田会長は「自治協に新たな心強いメンバーも増え、活動がようやく実態に即した形になってきた。市と連携して、今後の事業や次の新たな5カ年計画を策定して、住民とともに今津地域が元気で活力ある街となるよう、ともに頑張りましょう」と挨拶。



全員挙手で承認されました。





## イルミネーション点灯

11月25日、近江今津駅西側広場に鮮やかなイルミネーションが点灯しました。

民間団体が企画している「まちに明かりをプロジェクト」と連携し、玄関口である近江今津駅のにぎわいを作り出そうと実施しています。当会と高島市、地域の(株)七黒の七黒幸太郎さんが連携し実現しました。

スマホで撮影する人もあり、「駅に降りて、華やかなイルミネーションを見ると、明るくて和む気持ちになる」と見上げていました。

令和5年1月10日まで点灯を予定しています。

通りの活用事業

## 防災に対する支援事業

区・自治会での自主防災組織活動を支援することを目的に、区・自治会などの要望に応え、日ごろからの防災意識の向上に取り組むものです。

10月16日に実施された浜分区自主防災会による防災訓練のなかで、可搬消防小型ポンプの操作研修を行いました。操作方法は、高島市消防団山口茂和今津副団長が手順を解説。参加者は動作確認しながら放水しました。



## 通りのガイド養成事業

11月12日、通りのガイド現地講習会が開かれました。6月に今津の歴史や観光などについて2回の講義を聞き、実際に現地を回りながらガイドの実際を学びました。

講師は、ガイドをされている春山太郎さんと澤田浩さんが、通りにある史跡や歴史、今津、琵琶湖など幅広い知識とガイドポイントを解説。受講生は1ヶ所ずつ確認しながら、真剣に聞き入っていました。

「あらためてガイドを聞くと、なるほどと納得する。通りだけでもこれだけあるのかと再認識した」と話していました。

## 今津再発見!! 今津の見どころ ガイド養成

当日は近江今津駅に集合し、駅東広場の記念碑前を出発。琵琶湖周航の歌資料館から琵琶湖周航通りを経て今津港へ。浜通りから九里半街道・起終点地、ヴォーリズ通りから辻川通りと回り、ポイントごとに説明を聞きながら移動しました。





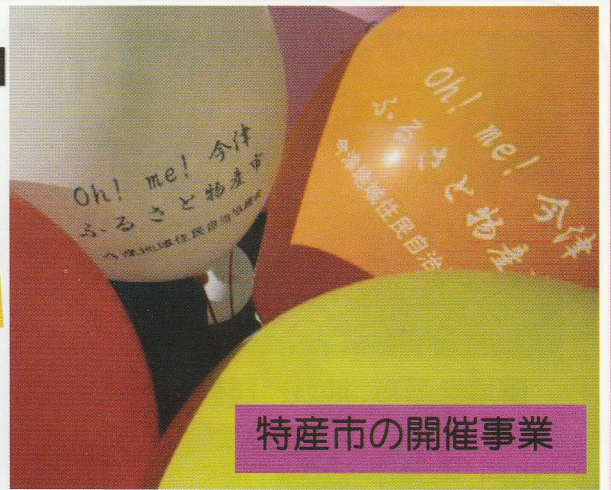
# 名小路商店街「名小路誕生祭」

## 稔りの秋の Oh! me! 今津 ふるさと特産市



富有柿、今津産米、地元野菜、オリーブ茶、ホーリーバジル茶、箱館そばなど、地元の特産品らをズラリと並べ、1月6日、ローラン名小路誕生祭と協賛で「Oh!me!今津ふるさと特産市」を開きました。

13時、15時には餅つき大会。なつかしい臼でのもちつきに、子どもたちは興味深そうに見つめ、つきたてのお餅を「おいしい!」と頬張っていました。お餅は無料で配られ、長い列ができたものの思いがけないプレゼントに大喜びでした。



特産市の開催事業



## 地域の魅力を発信

「近江今津駅前中心部の案内マップ」につづき、今津を訪れた人に、もっと魅力をアピールできるよう、今津中心部だけでなく、今津地域全体を総合的に判りやすく解説した第2弾マップを作成中です。

まだまだ多くの魅力ある場所を、マップを手に訪ねられるよう、地域を発信していきます。



ただ今、作成中!です!!

地域のマップづくり事業



最悪の侵略的植物

# 特定外来植物を学ぶ

環境を学び、地域と琵琶湖の自然を将来につなげるため、10月9日、今津中学校と「環境を守るいまづの会」、高島市、高島市社会福祉協議会、滋賀県と連携し、琵琶湖岸に繁殖が確認されている特定外来植物の駆除と年々減少傾向にある「ハマヒルガオ」の群落保全を学びました。

28人が参加し、琵琶湖岸に打ち上げられたゴミや空き缶などを回収。「こんな物も」と驚きながら、砂浜をていねいに見回りながら軽トラック約一台分を拾い集めました。

河口に繁殖し、農業被害も引きおこす特定外来植物「ナガエツルノゲイトウ」の特性を県琵琶湖環境部自然環境保全課の中井克樹副主幹から学びました。「一番厄介なことは、茎がちぎれやすく数cmの断片から簡単に発根し広がる。水陸両生なので草刈機などでの中途半端な駆除は面積を拡大することになる。適正に処理しないと止めら



中井副主幹から説明を聞く参加者

れない」と説明を聞き、「なかなか手強い相手」だと参加者は現物を見入っていました。

参加した中学生は「地域とつながり琵琶湖という豊かな自然環境を守ることは大事なことだと思ったし、大変なことだとも感じた。これから個人的にも関わっていききたいと思う」と感想を話しました。

今後、環境学習だけでなく、広く今津中学校と地域が連携した取り組みをすすめていくことにしています。

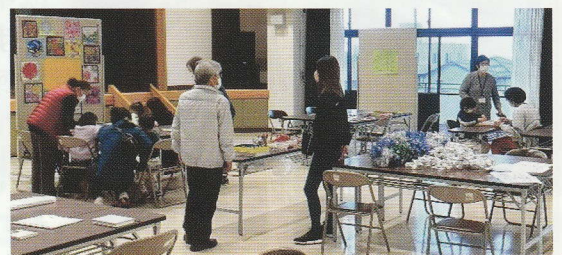


## 地域の活動を支援 「コラボ未来食堂」

子ども食堂支援事業

2018年から毎月第4土曜日を基本に、旧北コミュニティセンターで開かれている子ども食堂。「子ども食堂を介してさまざまな人が集い、自然な形で学び合う関係」をめざして運営されています。

11月23日には、同会が支援した「コラボ 未来食堂」が、場所を変え、今津東コミュニティセンター（今津公民館）で開かれました。





# いざという時に



## 広域避難所運営相談事業

いざという時には、あわてず行動することが原則ですが、想定される災害を知り、地域でできること、家庭でできること、ひとりでできることを確認しておくことは大事なことです。

広域避難所は、自宅にいることが危険な方や自宅の被災等により戻れない方を受け入れる施設です。ここでは複数の区・自治会が避難することになり、住民の自主運営が原則とされています。避難所のルールを決めるとか連絡や避難者の受け入れ、備蓄物資等の搬入など多くの運営業務が発生します。

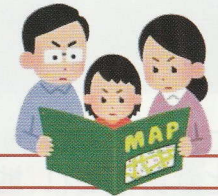
そこで現在、広域避難所単位で想定される状況に備えて話し合いがすすんでいます。

今津上体育館を広域避難所とする4区の活動を参考に、11月28日に今津総合運動公園スパーク今津を広域避難所とする5区が、初めての運営会議を開催しました。また、今津東コミュニティセンターを避難所とする中浜区・北浜区では、今年も見学会と意見交換会を12月11日に開きました。

今津地域内には17ヶ所の避難所があります。スムーズに避難所運営ができるよう支援していきます。



避難所で活躍する段ボールベットを組み立てる参加者。



# 路上あそびで分別ゲーム

## ごみ分別学習事業



名小路商店街で11月5日～6日に開かれた「名小路誕生祭」のなかで、親子で「わくわく路上あそび」(5日)が催され、あわせて近江今津駅西側広場で「ごみ分別ゲーム」を実施しました。

ゲームは、魚つりゲームの要領で封筒に入ったごみカードをつり上げ、11ヶ所の分別場所に入れるというもの。親子で参加した家族は「いろんなカードが入っていて、よく考えないと判らないものもある。何気なく分けていたけど、ちゃんと理解しておかないと…」と改めて思ったと話されました。子ども達も「わからない」を連発しながらも、聞きながら仕分けし、担当者は、遊びながら身近に感じてもらえればと説明に追われていました。







あんな人こんな人

いまづ  
まちなか  
探訪記

## おっきん! 椋川

2004年に始まった「おっきん! 椋川」。集落の中を歩いて、地元の人を作る食べ物や手仕事

品を楽しみながら交流できる「てづくりの収穫祭」です。高島市内はもちろん、県外からも多くの方が訪れ、地域の方と交流します

「おっきん! 椋川」は、一人のおばさんの「朽木の朝市みたいなことができたらなあ」という一言からでした。そして、「椋川に伝わる食や手仕事などの“暮らしの文化”を伝えたい」「椋川という村を知ってもらいたい」という思いがあったので、朝市ではなく、村の中を歩いて交流する形になりました。



「おっきん」を始めた当初は、準備の大変さもあり、イベント開催に対する疑問や意見も少なくありませんでした。しかし、継続的な交流

によって、先人から受け継がれてきた暮らしの文化が評価され、地域の方の意識も前向きに変わったと感じています。また、「おっきん」のときには、子どもや孫、親戚の人が戻ってきてお祭りを手伝ってくれていて、暮らしの文化が、子どもや孫に伝えられる世代間交流の場にもなっています。お祭りのにぎわいは「盆・正月・“おっきん”」という言葉があるくらいです。ただ、ここ数年、高齢化によって、出店できる地元の人が減り「おっきん」も縮小



傾向にあります。地元の人が続けたいという気持ちがある間は、開催していきたいです。

椋川には、森林や川、田畑などの自然の素材がたくさんありますが、これらの素材が活かされずに放置されています。素材を活かしてくれる地元の人や他所の人を増やすためにも、「おっきん! 椋川」を今後も続けていきたいと思っています。

(文章:「結いの里・椋川」事務局・是永宙)



## ストーブ火災にご注意を!

## 年末年始の火災予防



高島市消防団今津分団の年末消防訓練が12月11日、椋川区で開かれました。

冬の時期は空気が乾燥し、暖房器具や火気を使用する機会が増えることから、火災の発生が増加する恐れがあります。かけがえのない生命と財産を守るためにも、お出かけ前やお休み前はもちろんのこと、火の元には十分注意をしましょう。

消防団の仲間を募集中です!!  
一緒に地域のために活動しませんか!!





# 募集結果 『通り』の名称



多くのご応募  
ありがとうございました!!

産業・観光・文化部会では、「通りのネーミング」事業で名称を募集しましたところ、多くの応募をいただきました。

三つの通りの愛称は決定させていただきましたが、応募内容をご報告いたします。

近江今津駅から今津港までの区間

## 【琵琶湖周航通り】



【応募のあった名称】

はなの港通り、昭和新道(琵琶湖線)、湖風通り、周航ろまん通り、今津港フラワーロード、港はなのみち通り、巡礼通り、ひつじぐさの道、びわ湖御幸通り、はなのみち、美化活動はなのみち、周航の歌通り、さざなみ通り、今津花街道、ひつじぐさ通り、巡礼フラワー通り、西国巡礼通り、**琵琶湖周航通り**

【選考理由】

今津町は「琵琶湖周航の歌」発祥の地です。竹生島に向かう多くの観光客が歩く道を重視しました。



近江今津駅から大供区の三叉路までの区間

## 【駅前ユリノキ通り】



【応募のあった名称】

ユリノキ街道通り、昭和新道(東西線)、駅南大通り、琵琶湖周航通り、今津駅ユリノキ通り、ユリノキ並木通り、巡礼通り、桜通り、ユリノキ並木道、ユリの木通り、ゆりの木ロード、ユリノキ通り、駅前大通り、琵琶湖大通り、**駅前ユリノキ通り**

【選考理由】

多くの応募に「ユリノキ」が入り、駅前に通じる事から駅前ユリノキ通りとしました。



江若鉄道の線路があった通り

## 【江若鉄道記念通り】

【応募のあった名称】

江若鉄道の道、江若鉄道思い出の道、江若線路跡通り、江若鉄道通り、こうじゃく通り、**江若鉄道記念通り**、旧江若鉄道通り、自動車道

【選考理由】

応募されたほとんどの方が「江若鉄道」という名称をつけ、記憶に残したいとの思いで選定しました。





知っ  
てる

街ネタ

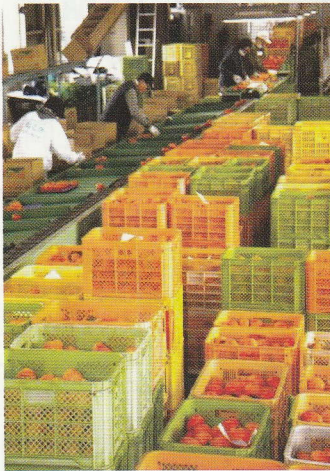
# 南深清水で柿まつり



11月27日、色づいた柿畑のなかで第5回柿まつりが開かれました。

特産の「富有柿」の収穫が最盛期となり、会場に柿カレーやキッチンカー、自然素材を生かしたワークショップなどが出店し、多くの来場者は柿の収穫体験や新鮮野菜を買い求めながら深まる秋を堪能されたようでした。

## JA 選果場もフル稼働



県内最大の柿産地である「柿の里 今津」。

JA レーク滋賀農産物選果場では、コンテナで持ち込まれる富有柿を検査選別し、市場などに出荷しています。今年は天候により一部着色が遅れたところもありましたが、品質・収量ともに良く、フル稼働していました。



子ども達も、もぎ取り収穫体験に大喜び。

## 自治協って なに!?

### 活動エリア の考え方は?

住民自治協議会は、地域住民の連帯意識や伝統文化の共有など、連携意識が醸成しやすいエリアが望ましいとされています。既に中学校区単位でさまざまな活動をされている各種団体があり、新たなコミュニティの形成に向け連携できる素地があります。このことから高島市地域コミュニティ推進指針の中で、中学校区ごとの活動エリアと定めています。

より、地域の実態に即した活動をおこなうための区域となります。



### 編集後記



令和3年(2021)11月28日に自治協が設立し、1年が経過しました。まだまだ自治協の活動が知られていない、「自治協って何?」という現状がありますが、体制もふくみ活動が進むにつれ、着実に関わりが広がっているようにも感じています。

自治協では、ホームページを作成中です。プロジェクトチームで検討をすすめ、SNS を活用しながら地域に根ざした“関わり人口”を増やせるようなホームページを目指しています。次期5年のまちづくり計画の策定もスタートしますので、ホームページを有効に活用した広報を進めていきます。いろいろなご意見をお聞かせください。

令和5年もよろしくお願いたします。